

平成 30 年度森林生態系モニタリング調査等計画

1. 屋久島南部等地域（烏帽子岳周辺）の垂直方向の植生モニタリング調査
湯泊から烏帽子・七五岳周辺に至る標高 200m 地点から烏帽子岳山頂付近（標高 1,600m）及び、標高 5m の大川の滝風景林、田代ヶ浜風景林並びに烏帽子岳山頂及び七五岳山頂に設定している既設調査プロット（標高地点別プロット 11 箇所、植物相調査地点 1 箇所）において植生調査を行い、調査結果を取りまとめる。また、今回と過去 3 回（平成 15・20・25 年度）との調査結果を比較・分析し、動態予測を行い評価する。
2. 高層湿原の保全対策モニタリング調査
数年来の歩道からの土砂の流入、水位の低下、ヤクシカによる食圧、踏圧による影響等により衰退が顕著となっている高層湿原について、これまでの科学委員会の助言、モニタリング調査等の結果を踏まえ、湿原の適切な保全対策を講じるためのモニタリング調査を実施する。
【花之江河】
水の流入、流出、流路の変化など水文学によるモニタリング調査の実施。
【小花之江河】
平成 29 年度に設置した植生保護柵内の植生回復モニタリング調査の実施。
これらのモニタリング調査（3～5 年継続調査）を基に、高層湿原の衰退原因を洗い出し、保全対策を講じる案を示す。
なお、ヤクシカの生息状況等調査（定点カメラ等）についても別途調査する。
3. 大株歩道等周辺の植生影響調査と分析・評価
大株歩道入口から宮之浦岳山頂に至るまでの歩道周辺（標高地点別プロット 4 箇所）における植生の衰退状況を調査する。また、登山者の利用が周辺植生に及ぼす影響について調査し、過去 3 回（14・19・24 年度）の調査と比較・分析し動態予測を行い評価する。
4. 縄文杉・夫婦杉周辺下層植生等の状況調査
縄文杉・夫婦杉周辺の植生モニタリング調査を実施し、過去 3 回（14・19・24 年度）の調査と比較・分析し動態予測を行い評価する。併せて、縄文杉周辺の植生（立木）の状況把握調査を実施する。
5. 著名ヤクスギ樹勢回復措置及び樹勢診断
6. 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査（林野庁⇒局継続）
7. 外来種「アブラギリ」駆除の実施
約 20ha 計画

屋久島南部地域（烏帽子岳周辺）垂直方向植生モニタリング調査地点

